

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 7 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Changes in adolescents' reasons for drinking in Switzerland and associations with alcohol use from 1994 to 2002.</p> <p>1994年から2002年にかけての青少年の飲酒理由の変化、またその理由と飲酒との関連について、スイスの検討</p>	
執筆者	
Kokkevi A, Nic Gabhainn S, Spyropoulou M; Risk Behaviour Focus Group of the HBSC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Adolesc Health. 2006 Nov;39(5):712-9.	
キーワード	
飲酒理由、酔い方、アルコール摂取、経時変化、青少年、スイス	
<p><b>要 旨</b></p> <p>目的： 1994年から2002年にかけての青少年の飲酒する理由の構成割合の変化、およびその変化と飲酒についての関連を調査した。</p> <p>方法： 3792人の飲酒習慣のある青少年を(8<sup>th</sup>-9<sup>th</sup> grade, 平均15.5歳)対象に飲酒理由(複数回答可)の変化を調査した。項目としては以下のものが聴取された、①友達が飲むから②試してみたかったから③酒を味わうのが好きだから④アルコールの効果が好きだから⑤家族での習慣だから⑥この年では法的にも飲酒可能だから⑦飲むと気持ちいいから⑧お祝いだから。飲酒割合の変化については<math>\chi^2</math>(カイ)2乗検定を、飲酒理由の構成割合と飲酒量・頻度・酔い方については重回帰分析で調査。</p> <p>結果： ほとんどの学生が飲酒する理由として、お祝いに関わる機会だから、試してみたかったから、味わうのが好きだから、という項目を挙げていた。飲酒の理由は1994年と2002年で全ての項目が上昇していた。重回帰分析ではほぼ全ての項目で酒量が多いと酔い方が強いという有意な結果が得られた。ほとんどの項目で1994年と2002年では同様の関連を示した。また複数回答のうち、いくつ理由を挙げるかという項目も重要であった。理由を多く挙げた者ほど飲酒機会が多かった。最も多く飲酒するのはほとんど全ての項目を飲酒理由としてあげていた集団で、このような集団は1994年にはいなかった。</p> <p>結論： 飲酒する理由が多く、飲酒量・機会の多い新たな集団が存在することが明らかとなった。このような新しい集団に対する予防的アプローチが必要である。</p>	